

分類不能を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	1	10 ～ 11	普通貨物自動車で走行中、道路脇のガードレールを突き破り約80メートル下の河原に転落した。	40301	17	10～ 29
1999	5	13 ～ 14	自動織機の工事で使用する材料を2人で取りに来て、1人が建物内に材料を取りに入っているときに、「ドサッ」と外で音がしたので見に行くと、同僚が倒れていて後頭部を打撲していた。	30302	99	30～ 49
1999	6	17 ～ 18	木造新築工事現場の1階玄関ホールに作業者が倒れているのを、サッシの納入に来た業者が発見した。	30202	99	1～9
1999	7	10 ～ 11	圧力容器のタンク内部の研磨作業中、研磨機械に漏電していて感電した。	11209	13	10～ 29
1999	9	11 ～ 12	ブル集材作業で、午前中最後の作業となった胸高直径約40cm、長さ約14mのナラ材の荷掛け引き上げのOKの合図が傾斜約50度の斜面の下方約45mの位置からより出たので、ブル集材運転手がワイヤを引き上げたが、その後、合図者が戻って来ないので探しに行ったところ、荷掛け場所から約11m下方で倒れているのを発見した。	60201	99	1～9
1999	2	22 ～ 23	タクシー運転業務中、乗客に刃物で右頸部を刺された。	40201	99	30～ 49
		13	植木の剪定作業のため塀に立て掛けてあったアルミ製のはしごの下で			

1999	10	～	仰向けになっているのが発見されたが、剪定バサミが塀に置かれていた	30199	99	1～9
		14	たので剪定作業中に発生したものではない。(外傷性急性大動脈解離)			
1999	8	19	事務所から出火し、隣接している従業員宿舎1棟と浴室1棟に延焼して	30106	16	10～
		～	全焼したため、入浴中の者が逃げ遅れて焼死した。			29
		20				
2000	8	16	放射性廃棄物処理建屋内において、機械設備の点検・補修、床清掃の	30302	1	100
		～	際にでる放射性物質を含む汚水を回収するサンプタンクで残水の処理			～
		17	作業を行っていた労働者の体調が悪くなったので救助に向かったとき			299
			に、縄はしごから転落した。			
2000	4	15	事業場内の照明を消灯し、入口の自動シャッターの下降を開始させて	80109	7	30～
		～	入口を通り場外へ退出しようとしたときに転倒し、下降してきた自動			49
		16	シャッターに背部よりはさまれた。			
2000	2	12		30199	16	30～
		～	男子寮の2階に寄宿していた労働者2名が焼死した。			49
		13				
2000	2	12		30199	16	30～
		～	男子寮の2階に寄宿していた労働者2名が焼死した。			49
		13				
2000	7	0	会社の研修で公園を3周走るように命令されて2周半走破したときに倒	170209	99	100
		～	れ、全身痙攣を起した。			～
		1				299
2000	2	17	ホテルの厨房において、上司が後片付けを指示したが遂行されていな	140101	99	50～
		～	かったため、頭を木製の盆で叩きさらに転倒した腹部への足蹴りによ			99
		18	り肝臓が破裂した。			
2001	1	21	工場が火災になったので、消防隊員に一旦制止されたが、中に入って	10102	16	100
		～	選別包装工場2階階段付近で焼死した。			～
		22				299

2001	9	10 ～ 11	競売で落札した家屋の引渡し命令の強制執行のため、裁判所の執行官に同行して家屋へ訪問したが旧持ち主が不在のためその家屋で待っていたところ、戻ってきた旧持ち主がいきなり日本刀で襲い掛かり、胸部を刺された。	90209	99	1～9
2001	9	17 ～ 18	プールの清掃作業中の者がプールのコースロープを抱えたまま死亡しているところを巡回中の警備員に発見された。	150101	90	10～ 29
2001	11	7 ～ 8	汚泥浄化棟内(2階建)の1階階段下付近において、汚泥状態の目視点検作業に行った者が嘔吐して後頭部から血が出ている状況で、意識についてもはっきりしない状態で倒れているのを、同棟に近接する箇所で建築工事を行っていた建設現場所長が発見した。	11603	99	10～ 29
2001	3	20 ～ 21	ポリエステル繊維製造工程において、延伸機の糸切れによる不具合の解消作業で、引張った状態で製造しているポリエステル繊維が機械側に戻らないよう切断した端を持っていた者が突然尻餅をつくような形で倒れ込み、そのまま右肩を下にした状態で高さ32cmの架台上から転落した。	10802	99	300 ～ 499
2002	7	10 ～ 11	同僚6名と軌道脇法面の除草後の草の集積作業に取り組むことになっていたところ、橋下の公道にうつ伏せになって倒れていた。(状況、原因不明)	30199	99	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	鉄骨造ブロック積み3階建てビルの解体工事において、午前の休憩後に解体用重機のオペレーターが現場に戻るときに、ビルの鉄骨階段(階段手すりは撤去されていた)から2.5m離れた地面に解体工が倒れているのを発見した。	30201	99	1～9
2002	6	8 ～ 9	市民センター資材置場の空地の草刈作業現場で、前日刈った草を収集して車に運ぶ作業に従事していた者が法面でうつ伏せに倒れていたのが発見された。	30199	2	10～ 29
2002	2	5 ～	自宅の寝室において倒れているのを発見し病院に移送したが、くも膜	40301	99	10～

		6	下出血のため死亡した。			29
2002	2	11 ～ 12	市水道部の住宅竣工検査を受けるため、一人で水道メーターボックスに付着していたコンクリートをはつる作業をしていて倒れた。	170209	90	1～9
2002	2	20 ～ 21	製鉄所構内で行われた配管移設工事に立ち会って帰宅し、入浴して食事を済ませたときに呼吸困難となり死亡した。	170209	99	50～ 99
2002	7	8 ～ 9	ワゴン車を使用して遊園地の従業員の送迎を行っていたが、夜勤者より出迎えがないと連絡があり、電話連絡したが応答ないので捜索したところ路上の車内で意識を失っていた。	170201	99	50～ 99
2003	3	9 ～ 10	コンピューターソフトの開発担当者が外注先に出張して連続した過重労働を強いられ、ビル9階の窓から投身自殺した。	170202	99	30～ 49
2003	3	13 ～ 14	一人でチェーンソーを使用して山林の伐採作業を行っていた者が、午後に縦の木を伐採するという無線連絡をしてきたのち連絡が途絶えたため、他の者が現場に駆けつけたところ、縦の木の切り株から約15m下の沢の中に倒れて死亡していた。	60201	99	10～ 29
2003	4	5 ～ 6	事業場における管理監督者としての重責を負って業務量および労働時間の増加があり、体力的・精神的に過大な負荷を受けて自殺した。	10809	99	100 ～ 299
2003	5	14 ～ 15	パチンコ景品買い取り所内で勤務中に殺害された。	80409	99	1～9
2003	12	4 ～ 5	強盗を目的とした犯人がタクシーに乗車し、途中で鋭利な刃物で胸など数カ所を刺された。	40201	99	100 ～ 299
		12				

2004	7	～ 13	ガソリンスタンドで勤務中、売上金を盗もうとした同僚に殺害された。	80204	99	1～9
2004	5	～ 23	農道においてタクシー内で運転手が刃物で刺された。	40201	8	100 ～ 299
2004	2	～ 13	12 パチンコ店閉店後に役員への報告のため制服で店内待機中、店の前で泥酔し騒ぐ男に対し外に出て注意したところ、男に路上まで引きずられ、殴打された。	170209	99	10～ 29
2004	2	～ 17	16 粉碎室において、移動式の階段を使用して粉碎機の投入機より原料を投入していたところ、階段の脇で倒れた。	170209	99	10～ 29
2004	5	～ 10	9 清掃作業を行っていた際に火災が発生し、逃げ遅れた。	150103	16	1～9
2004	1	～ 17	16 道路局部改良工事現場において、被災者を含めた3名が工事記録の写真撮影作業を行っていた。終業時間になって被災者がいないことに気づいた同僚が、周囲を捜索したところ、現場事務所が置かれた県道から51m下の川に転落している被災者を発見した。	30106	1	10～ 29
2004	2	～ 15	14 トラックコンテナからホッパーに魚粉を入れる作業を行うため、詰所から作業場所へ向かって岸壁を歩いているときに、海中に転落した。	50101	10	30～ 49
2004	6	～ 11	10 銀行の応接室において面談中の客にいきなり包丁で刺された。	90101	99	1～9
2005	11	～ 21	20 岸壁に車を停車後、降車したところ海に転落し、溺れた。	30301	1	10～ 29

2005	7	7 ～ 8	斜面から投身した。業務における強い心理的負荷から、うつ病を発症していた。	80109	3	30～ 49
2005	1	21 ～ 22	コンテナ荷役作業において、岸壁上のガントリークレーンの下付近でガントリークレーンやトレーラトラックに対して合図をしていた被災者がつり荷に激突された。	50202	99	50～ 99
2005	6	11 ～ 12	ビル内の清掃作業終了後、エレベーター内で気分が悪くなり、意識を失った。	150101	99	50～ 99
2005	12	6 ～ 7	補習授業の合宿中に、宿泊部屋のベッド脇に倒れていた。	120109	99	50～ 99
2005	8	15 ～ 16	成型機を操作しタイヤ外周部作成作業に従事していたところ、機械前面部ドラムに激突し倒れた。	10806	99	1000 ～ 9999
2005	8	17 ～ 18	売上金回収業務中に社用車の後部座席にて伝票処理作業を行っている際に倒れ、死亡した。	170201	99	300 ～
2005	1	11 ～ 12	事務所内で会話中、突然倒れた。	40201	99	100 ～ 299
2005	6	10 ～ 11	洗浄機のピット内でストレーナーのフロートを交換していたところ倒れた。	11209	99	100 ～ 299
2005	9	17 ～ 18	駐車したトラックの脇から崖側に車止めの上に立っていたところ、20m下の池に転落した。	40301	1	30～ 49

2005	7	16 ～ 17	午前中の自動ドア修理作業を終え、工事車両内での昼食後、からだの不調を訴えて嘔吐し、死亡した。	11702	99	10～ 29
2005	12	19 ～ 20	衣料品店内において火災が発生したため、従業員が消火活動を行っていたところ、逃げ遅れて焼死した。	80209	16	1～9
2006	4	17 ～ 18	産業廃棄物の最終処分場内において、約5度の傾斜の地面に停止していたゴミ収集車が動き出したため、選別作業をしていた被災者は、同車を停止させるため運転席に飛び乗った。同車は瓦礫の山に衝突して停車したが、被災者が死亡した。	150102	90	30～ 49
2006	4	14 ～ 15	まき網運搬船（346t）の法定点検作業において、被災者はタンク（配管等の設備空間のみ）内に位置する生活排水配管の逆止弁を点検していたが、マンホール直下の当該タンク内に被災者が倒れているのを当該運搬船の乗組員に発見された。	11501	10	1～9
2006	5	13 ～ 14	労働者が、タンク内の水砕（鉄鉱石の不純物）をブローガンで高圧洗浄を行っている際、何かが右側から飛来、被災した。	150109	4	10～ 29
2006	5	5 ～ 6	被災者は、ホテル宿泊客の朝食の準備のため、出勤し1階食堂の鍵を開け入ると、盗み目的で先に侵入していた容疑者がおり、発見されたことからビール樽で数回殴られた。	140101	90	10～ 29
2006	12	4 ～ 5	被災者は、営業所の車庫待ちで勤務していたところ、夜勤終了時刻ころ、売上げが上がらないことから配車係に終業時刻後に流しで引続き勤務したい旨申し出て出庫した。その後自ら運転していた営業車のトランクから発見された。GPSには実車となり目的地方面に向かい発見場所に至った記録があった。	40201	99	30～ 49
2006	7	10 ～ 11	ガス供給管新設工事の作業中、被災者が工事車両に向かって歩いていたら、突然けいれんを起こし卒倒した。直後に病院に搬送されたが、翌日死亡した。	30199	99	10～ 29

2006	11	14 ～ 15	木造家屋建築工事において、内装工事を行っていた被災者が、材料置場の2階の室内床上に倒れているところを同僚に発見され、骨折、打撲により手術を行い入院加療中であったが、死亡した。	30202	99	1～9
2007	4	8 ～ 9	同一事業場内で作業する他社の所属作業員から一方的に暴力を受け死亡した。	40301	99	10～ 29
2007	6	6 ～ 7	災害発生日の前日から泊り込みで片付け作業を行っていた。単独で作業していたことから、夜間に仮眠等の休養をとっていたかは判然としないが、災害発生時点において被災者は自ら体調の不良を警備員に訴え、病院に搬送されたが死亡した。	170209	99	1～9
2007	12	21 ～ 22	閉店後、店の売上金等が入った手提げ金庫を持ち、店舗向かいにある事務所に運んで行った際、事務所内で強盗に襲われた。	80209	99	1～9
2007	8	14 ～ 15	店舗解体工事現場において、被災者が解体建屋の2階を西から東に歩いて行くのを目撃されたのを最後に所在が不明になり、工事関係者及び警察・消防で捜索していたところ、2日後、解体中のエスカレーターの間から発見された。	30209	99	10～ 29
2007	7	15 ～ 16	被災者他1名は、ドレン抜き配管及びドレン受皿設置のため、保冷室に入った。配管作業によりドレン漏れが予想されたので、被災者が床上で、バケツでドレンを受けることとし、準備をしていたところ、被災者は転倒し、ラックの鋼製部材で強打した。	30309	2	10～ 29
2008	11	7 ～ 8	被災者は、新聞（朝刊）配達のため販売店において紙分け作業終了後、重量約8kgの新聞を自転車の前の籠に積んで出発した後、マンションの塀に自転車ごと寄りかかりうずくまっているところを通行人に発見され、病院に搬送後、死亡した。	80205	99	1～9
2008	8	2	深夜営業の店舗内から釣具を盗み、車で逃げた2人組を追いかけた被災者は、犯人の車のフロントガラスにしがみついたが、急ブレーキで振	80209	99	1～9

		3	り落とされ、車の下にはさまれたまま約60mひきずられて死亡した。			
2008	1	7 ～ 8	小学校のボイラー室において、殺害された被災者（臨時職員）が発見された。なお、被災者は同校に所属する職員により刃物で刺殺された。	120109	99	50～ 99
2008	3	14 ～ 15	商品保管倉庫内に積まれていたウレタン製断熱パネルの上に意識不明の状態の被災者が発見され、死亡が確認された。被災者が発見された場所から少し離れたところに、商品にもたれかかるように傾いている脚立があり、その下には被災者が普段使用している眼鏡が落ちていた。	80109	99	30～ 49
2008	3	15 ～ 16	空気弁及び空気弁室の修繕工場の現場において、現場の写真撮影及びセメントモルタルの補修作業に従事していたところ、被災者はゆっくりと屈みこむように倒れた。	30203	99	1～9
2008	10	10 ～ 11	川の護岸整備工事において、護岸と護岸に横づけされた材料台船との間を往来した時、河川に転落しておぼれた。	30107	10	10～ 29
2008	5	16 ～ 17	被災者は配達業務の終了後、倉庫に保管するための段ボールをトラックに載せて事業場から倉庫に向かった。その後、「倉庫前に人が倒れている。」との連絡が入ったため確認に行ったところ、被災者が倉庫前に停車してあるトラックの後部で仰向けに倒れているのを発見した。	10805	99	1～9
2008	5	6 ～ 7	荷の配送先倉庫の納品口において、配送先の関係者が始業のために機械警備の解除操作をした。後方で、荷の配送をしてきたトラック運転者の「あっ」という声を聞き、振り返ると、被災者が倉庫のプラットフォーム下で仰向けの状態に倒れていた。病院に搬送した後、死亡した。	40301	99	30～ 49
2009	7	17 ～	空き住宅のリフォームのため、被災者は1階の外壁、事業主は建物2階の塗装を行っていた。事業主が被災者に作業終了を伝えに行ったところ、地面に倒れている被災者を発見した。事業主は救急車を呼び病院	30209	99	1～9

		18	へ搬送したが、翌日に死亡した。なお、被災者は保護帽及び安全帯は着用していなかった。			
2009	5	12 ～ 13	勤務先の事務所で昼の休憩中、侵入者に刃物で身体を刺された。また、同じく事務所で休憩していた別の作業員も身体を刺され休業災害を負った。	10401	99	10～ 29
2009	9	21 ～ 22	パチンコ店において、店とトラブルを起こしたことがある男性が来店したため、入店を遠慮してもらうように被災者が駐車場で説得していたところ、男性が所持していたナイフで刺された。	140309	99	50～ 99
2009	10	8 ～ 9	躯体上又は足場上にて作業の準備を行っていたところ、墜落した。目撃者がいないため、墜落高さは不明である。	30201	1	1～9
2009	6	9 ～ 10	事務所に侵入した第三者（強盗殺人犯）に、鈍器で身体を殴打等され、死亡した。	90109	99	1～9
2009	11	23 ～ 24	路上において、停車していたタクシーの中で、客としてタクシーに乗車していた者に刃物で刺殺された。	40201	99	100 ～ 299
2009	8	10 ～ 11	被災者は、災害発生地まで食品運搬用タンクローリー車を1人で運転し、運送先で食品を下し、午前10時40分頃からタンクローリー容器内の清掃作業を行っていたが、容器内で倒れているのが発見され、死亡が確認された。	40301	99	10～ 29
2009	5	10 ～ 11	チルド倉庫内のデリカ在庫置場付近の屋根裏より火災が発生した。同倉庫内のトラックヤード付近で意識不明で倒れていたのを消防の救急隊が発見し、搬送先の病院で死亡した。	80401	16	1～9
2009	5	16 ～ 17	コンクリートミキサー車の運転を担当する被災者が、同車洗浄作業場所において、同車の左後輪を中腰で水洗いしていた。その後、あおむけになり地表面に倒れているところを発見された。	40302	99	10～ 29

2009	11	16 ～ 17	鉄筋資材置場で雨天に備えて鉄筋材にシート掛け作業中、転倒して鉄筋材の栈木が被災者に激突した。	11209	2	1～9
2010	5	15 ～ 16	商品見本やパンフレット類の入ったダンボール箱を台車を使って移動する際、スロープを後ろ向きに下がっていたところ、右下腿を負傷（肉離れ）した。右足を絆創膏固定術と薬剤投与で経過を見ていたが、17日後の業務終了後、自宅に戻ったところ血栓症を起こして体調不良に陥り、救急車搬送される途中に死亡した。	170209	99	100 ～ 299
2010	7	22 ～ 23	ホテルで開催された2泊3日の会社主催の研修会に出席していた被災者が、2日目の研修終了後、宿泊ホテルの自室で坐って休んでいたところ、休みはじめて10分程経ったところで急に左後方に倒れ意識不明となった。その後医療機関に搬送され、2週間後に脳内疾病により死亡した。過重労働とみられる。	40301	90	30～ 49
2010	8	4 ～ 5	事務所内で待機しているとき、何者かに鉱物油を撒かれ、火をつけられた。	80204	99	1～9
2010	8	0 ～ 1	被災者は建築工事現場において、2階渡り廊下の鉄骨にサッシを取り付けるための下地をアーク溶接により取り付ける作業を行っていた。昼休みになるため、作業を一旦中断した後、何らかの原因で2階渡り廊下の開口部分もしくは足場から墜落したと推定される。昼休み後、地面に倒れている被災者が発見され、病院で死亡が確認された。目撃者はいない。	30201	1	10～ 29
2010	8	7 ～ 8	支店構内の燃料スタンド近くで仰向けで倒れていた被災者が発見され、病院まで救急車により搬送されたが、2日後に死亡したもの。目撃者がおらず詳細は不明。	40301	2	100 ～ 299
2011	6	6 ～	早朝、自宅トイレで嘔吐した状態で死亡していたところを家族に発見されたもの。死亡原因は「脳内出血」であり、発症前1ヶ月間の時間外労働時間数が100時間を超えていたもの。（平成23年11月9	80202	90	10～ 29

		7	日労災認定)			
2011	11	12 ～ 13	被災者は午前中に同僚と製品を配達し終え、事業場に戻ってきた後、 午後の配達分の準備を行っていた。その後、中2階へ上るための梯子 の下に、意識不明で倒れている所を同僚に発見された。意識が回復し ないまま、12月3日に死亡した。	10105	99	1～9
2011	7	13 ～ 14	午前11時頃から食品工業内でフォークリフトを使用しトラックにフ レコンバックの荷積み作業を行っていたが、午後1時半頃トラック運 転席で具合の悪そうにしている被災者がいた。この時「頭が痛く、 真っ白になった」と話しており、その後同僚が迎えにきて会社に戻っ て自宅に送り届けた。しかし翌朝、家族が口周辺に血が広がって意識 のない被災者を発見したもの。その後病院へ搬送されるも様態が悪化 し、8月25日死亡した。	40301	99	10～ 29
2011	2	4 ～ 5	被災者は4tトラック（保冷車）で生洋菓子を愛知県内の物流セン ターに配送する業務に従事していた。中央自動車道下り線を走行中、 「くも膜下出血」を発症し、同道路を走行する車両と接触した。病院 に搬送されたものの平成23年3月14日16時38分に死亡したも の。	40301	90	10～ 29
2011	12	1 ～ 2	保養施設敷地内に建てられた従業員宿舎から出火、当該建物に一人で 宿直していた被災者が、逃げ遅れて焼死した。	170209	16	
2011	2	16 ～ 17	新幹線高架橋建設工事において、つり足場上でPC桁の型枠の組立作 業を行っていた被災者が何らかの原因で喉部を打ちつけ、気道損傷等 で意識不明状態に陥り、9ヶ月後（11月11日）に死亡したもの。	30105	99	10～ 29
2011	9	6 ～ 7	9月6日朝7時頃、宿直勤務中であつた被災者が、宿直室と職員駐輪 場の隙間で頭から血を流してうつぶせで倒れているのを学校長が発 見、意識不明の状態でも病院に運ばれたが、翌日朝に外傷性脳障害で死 亡した。	120109	99	1～9

2011	7	11 ～ 12	山林において、事業主と被災者の2名で伐倒木の搬出の為の木寄せ作業を行っていたところ、被災者が直高7.2メートル、傾斜距離11.16メートル、傾斜角37度の斜面から転落した状態で発見された。	60201	1	1～9
2011	7	0 ～ 1	タクシー運転手の被災者は、客を装った犯人を乗車させた。被災者は、20km程離れた、犯行現場において、犯人に左脇腹などを数カ所を刺され、売上金1万円を奪われ、失血死した。	40201	99	50～ 99
2011	4	12 ～ 13	午前2時頃から乗客を乗せたまま勤務時間を過ぎても帰社せず、行方不明となっていた。その後、廃車置場にて、被災者が運転していたタクシーのトランクの中から被災者の遺体が発見された。遺体には、上半身に刃物によるとみられる複数の刺し傷があった。	40201	90	30～ 49
2012	3	18 ～ 19	出張の後帰宅途中、駅構内のトイレを使用し、立ち上がってズボンを着ている際に、バランスを崩して転倒し頭を強打した。被災者は一旦帰宅した後、救急搬送され「急性硬膜下血腫」で死亡した。	80209	2	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	タクシー乗務員である被災者が客を乗せ走行を開始したところ、客が準備していた小刀で首を刺され死亡した。	40201	99	100 ～ 299
2012	2	11 ～ 12	カフェの厨房にて、立ったままカウンターに伏せている被災者が発見された。発見者が声かけするも返答なし。体を床に寝かし脈を確認したが無かったため救急車を呼び、看護師による心肺蘇生を行ったものの回復せず、救急搬送先の病院で「心筋梗塞」のため死亡した。	130201	99	30～ 49
2012	2	3 ～ 4	被災者は岸壁に停泊したチップ船において、揚貨装置を運転し、チップの荷役作業に従事していたところ、途中で行方がわからなくなった。同僚等が搜索したところ、チップ船から約500m離れたチップヤードのたい積したチップの山の中から被災者が発見され、死亡が確認された。	50202	99	10～ 29
2012	4	13 ～	事務所において、事務職員が施設利用者に暴力行為を受け死亡した。	170209	99	1～9

		14				
2012	2	12 ～ 13	被災者は作業終了後、上司に「トイレ行ってくる」と伝えた後、戻ってこなかったため、上司が探したところ、駐車場に倒れていたのを発見され、救急搬送された病院で死亡した。なお、被災者は過去に何度も「てんかん」症状で就業中に倒れていた。	30108	2	1～9
2012	12	21 ～ 22	高速道路のパーキングエリアで、運転していた大型トラックの荷台から転落して後頭部をアスファルトに強打し、頭蓋骨骨折、脳挫傷により死亡した。	40301	99	30～ 49
2013	6	9 ～ 10	被災者は、事業者及び漁業者3名と漁船に乗り、ホタテ養殖施設の修繕等を行うため、スクーバ式潜水（ドライスーツ着用）により単独で約40m潜水し、同施設の海底アンカー付近のロープをナイフで切断後、何らかの原因で溺れ、足から海面に浮上した。	30199	10	1～9
2013	7	18 ～ 19	被災者はダンプトラック（以下、「車両」という。）での骨材の配送業務を終え、車庫（屋外駐車場）にて自身が運転した車両の点検等（タイヤのナット増し締め）の作業中、同僚が被災者のナット増し締めの音が聞こえなくなったことを不審に思い、様子を見にいったところ、被災者が車両右後部のタイヤ脇で倒れていた。	40301	99	10～ 29
2013	6	11 ～ 12	鋳物工場内で、ショットブラスト作業を担当していた被災者は、品物をショットブラスト内にセットした。始動後5分程度の待機時間中、転倒して後頭部を強打し、頭蓋骨骨折（急性硬膜下血腫）で意識不明となり、搬送先の病院で死亡した。	11002	2	10～ 29
2013	7	5 ～ 6	脂原料を混合するミキサー内（直径：1m、深さ：1m）において、被災者1名でミキサー内の清掃作業（布にガソリンを染み込ませての拭き取り）を行っていたところ、意識を失い死亡した。	10801	99	30～ 49
2013	9	17 ～	被災者は、自社倉庫（平屋、中2階有り）内の整理作業を単独で行っており（被災者の妻が、道路から本人が倉庫内で作業をしているのを見かけていた）が、上席者が倉庫内のコンクリート床上に倒れている	30199	99	10～ 29

		18	被災者を発見した。その後、救急搬送されたが、脳挫傷により死亡した。尚、災害発生時に目撃者はおらず、詳細は不明。			
2013	5	18 ～ 19	飲食していた客が、仰向けに倒れている被災者を発見し、1階にいた事業主に知らせた。被災者は、救急搬送されたが、死亡した。	140201	99	1～9
2014	7	19 ～ 20	空調機点検中、くも膜下出血により死亡した。	30301	99	1～9
2014	5	6 ～ 7	事業場敷地内へ自転車を止め歩いた際、後ろ向きに転倒し、頭部を打った。	30209	2	30～ 49
2014	5	8 ～ 9	荷降ろしの為、トラック内で待機していたところ、脳梗塞により死亡した。	40301	99	30～ 49
2014	3	15 ～ 16	事務所内にて会議中、急性大動脈解離により死亡した。	30201	90	100 ～ 299
2014	2	17 ～ 18	被災者は、徒歩にて夕刊の新聞配達を行っていた。なかなか家に帰ってこないことを不審に思った家族が被災者を探したところ、坂道の溝に倒れていた被災者を発見した。被災者は救急搬送されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。	80205	99	1～9
2015	5	11 ～ 12	当該事業場の労働者である被災者が、事業場内において健診を実施していた際、胃がん検診のためバリウムを飲み透視撮影台に寝ていたところ、頭部が当該機械に挟まれたもの。	10409	7	100 ～ 299
2015	9	16 ～	林道工事において、元請の作業員と共に2名で残土処理場の木柵の設置作業を終了した後、元請の作業員はドラグショベルで法面の整形作業を行い、被災者は行う作業がないため、元請の作業員から休憩する	30199	99	10～

		17	旨言われていた。別工事を行っていた建設工事の関係者が、車で帰社途中に、残土処理場の横の林道を走行していたところ、林道上に横向きに倒れている被災者を発見したもの。			29
2015	9	5 ～ 6	業務終了後の片づけ中に、後方から頭部を複数回殴打される。	140201	99	10～ 29
2015	7	21 ～ 22	調理場にて、客へ提供する食材を試食したところ肉片が喉に詰まり、呼吸困難に陥って救急搬送。搬送時点から低酸素脳症が認められ、発生から約2ヶ月経過した頃に多臓器不全に陥り、平成27年9月23日に死亡したもの。	140209	99	1～9
2015	8	15 ～ 16	間伐作業中、立木の伐倒作業で、伐倒した立木が予定の方向からずれて倒れた後、被災者は伐倒木先端の位置より下方の斜面で発見された。被災者は、災害発生後治療を受けていたが、10月2日に死亡した。	60201	99	1～9
2015	9	9 ～ 10	翌日の作業の準備のために出勤した労働者が、有機溶剤の回収槽付近で倒れている被災者を発見した。直後に休日の会社の様子を見に来た事業主とともに被災者の様子を見ていたが、一向に目を覚まさないため病院に搬送され、治療が行われたが、9月11日に脳ヘルニアのため死亡した。	10899	99	10～ 29
2015	7	15 ～ 16	被災者は、工場のエアー配管増設工事において、体調不良により休憩中になんらかの理由により頭部を負傷し、搬送先の病院で7月13日に死亡したもの。なお、発生時間不明のため、救急車を呼んだ時間を記載。災害の発生状況等目撃者がいないことから、被災者の体調不良の原因や発生した事象が不明であり労働災害と結論づけることができなかったが、労災請求先の署において、平成28年3月11日に業務上の決定がなされたもの。	30203	99	1～9
2015	4	8 ～	ゴルフ場コース内で、立木の枝打ち作業中、何らかの原因で墜落し、	140301	1	30～

		9	4月12日に、搬送先の病院で死亡した。			49
2015	9	14 ～ 15	木造2階建ての民家の屋根塗装工事において、一人の作業者が2階屋根の上でサンダーがけ作業を行い、被災者が地上でサンダーのコードが引っかけないようにしていたが、しばらくした後、近くにいた施主が、屋根に上がるために設置された移動はしごの傍で、ロープを握ってうつ伏せに倒れている被災者を発見した。目撃者はおらず、移動はしごを上がる途中か、高さ約3.2mの下屋から墜落し、胸部を強打したものと見られる。	30209	1	1～9
2015	5	11 ～ 12	事業場敷地周囲の崖付近で除草作業を行っていたところ、当該崖から河川に墜落した。その後、行方不明になっていたが、平成27年6月15日に河川で遺体となって発見された。本件、被災者は一人で作業なので、被災時の目撃者はおらず、災害発生時間も不明であるもの（該報告に際して、「災害発生時間」は便宜上入力。）。	150102	1	30～ 49
2015	9	21 ～ 22	タクシー運転業務中、事務所から無線で配車指示された場所で客を乗せ、客から指示のあった道の駐車場所に到着したところ、客から「金を出せ」と言われたあと刃物で腹部等を刺された。被災者はタクシーの外へ逃げて倒れていたところを、客の運転する車に頭部をひかれ死亡した。客は道の駐車場所に事前に自家用車を用意しており、犯行後自家用車で被災者の頭部をひいて逃走したもの。	40201	99	10～ 29
2016	10	7 ～ 8	作業打ち合わせ前に、現場代理人の被災者が現場状況の確認作業へ向かった後、打ち合わせ場所に戻ってこなかったため当該事業場の作業員が探しに行ったところ、横断管施工箇所の呑口柵に設置した水中ポンプにうつ伏せ状態で倒れている現場代理人を発見した。	30106	10	30～ 49
2016	8	12 ～ 13	12時頃、海女が入水。海底到達の合図とは違う合図があったため、引き上げをした。上がってきた海女は潜水マスクを外していて、意識がない状態だった。船上に引き上げ、港に戻り、救急車で病院に搬送してもらったが、死亡が確認された。死因は大動脈瘤破裂による溺	70201	10	1～9

			死。			
2016	7	8 ～ 9	被災者は当該事業場の倉庫の横に4 tトラック（ウイング車）を止め、荷物の積み替え作業の段取りを行っているものと思われていたが、同僚が付近を通りかかった時に、トラックの後ろで仰向けに倒れて頭部と耳から血を流している被災者が発見された。	40301	99	30～ 49
2017	10	10 ～ 11	トラック運転手の被災者は、荷主先構内で荷降ろし準備作業のため、トラック後方の観音扉左側を開け、続いて観音扉右側を開けた。待機していた荷先事業場のフォークリフト運転手が、トラック内の荷を取り後退しようとして振り返ったところ、アスファルト舗装の路面に仰向けに倒れている被災者を発見した。救急車で病院に運ばれたが、頭部打撲による頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫により死亡した。	40301	99	30～ 49
2017	8	10 ～ 11	被災者は斎場の屋外において来客者の案内と車両の誘導を行っていた。斎場において告別式が開始され、新たな来客者も途絶えていたところ、被災者が斎場前の道路の路側帯に後頭部を打ち付け倒れていたところを、通行人に発見され、救急車で病院に搬送されたものの、死亡が確認された。	170201	2	50～ 99
2017	5	16 ～ 17	被災者が横円筒形の大型管を支える台座の中にあるオイルパンの拭き取り作業を終えたところ、被災者の後方に置かれていたウエスに引火した炎がオイルパンに向かって走り、その通り道にいた被災者に燃え移り、火傷のため入院していた被災者が死亡した。	30302	16	1～9
2017	4	16 ～ 17	被災者は工事中、雨樋の取り付けのため足場上で単独作業をしていた。他の現場作業員が、足場の上からボルトが落ちてきた音を聞いたため、現場代理人に説明した。現場代理人が足場上を確認したところ、北面の足場の3層目（地上からの高さ4.76m）で被災者が倒れていた。病院に搬送されたが、翌日死亡が確認された。	30201	99	10～ 29
2017	3	22 ～	スキー用ワックスの研究開発に必要なデータ取りのため出張していた被災者が、路上で心肺停止の状態で見つかった。原因は不明であるが、頭部、顔面に打撲痕があり、頸椎損傷により歩行困難となり、寒	120109	99	1000 ～

		23	冷状態及び循環器不全等により死亡したと推定される。			9999
2018	7	20 ～ 21	被災者は、タクシーの運転手であり、夕方、乗客1人を乗せて、その後、豪雨で行方が分からなくなった。後日、遺体として発見された。	40201	99	30～ 49
2018	7	12 ～ 13	反応釜内で3種類の化学物質を加えている際に、爆発が発生し、作業の指示をしていた労働者1名が死亡し、同じ作業又は付近で作業をしていた労働者も負傷したほか、隣接する工場の労働者も負傷したものの。	10803	14	10～ 29
2018	7	10 ～ 11	被災者が取引先の事務所（3階）で打ち合わせ後に事務所を退室した。その直後、ドスンという大きな音がしたので事務所から出てみると、2階から1階の途中で被災者が倒れており、搬送先で死亡が確認された。	40301	99	1～9
2018	6	10 ～ 11	パラグライダースクールにて、被災者と利用客が、2人乗りパラグライダーでフライト中、キャノピー（布製の翼部）が窄まり、約30m上空から地面に墜落した。	140309	1	1～9
2018	3	16 ～ 17	終業時間が近づいたため、事務所から離れた場所にある作業場所（通称：駐車場）にて中古車販売用の10tトラックのホイール磨き作業に従事している労働者を迎えに行ったところ、作業場所に居なかったことから、駐車場内を探していたら、駐車場の外側を流れる用水路（幅80cm、深さ1m、水深9cm）の中でうつ伏せになって死亡している労働者を発見したものの。	11701	10	30～ 49
2018	2	8 ～ 9	荷主場所から荷を積込み出発し、翌々日に精米工場に米を配送した。工場到着後、30kgの袋をトラック荷台から床に荷卸しする作業を行っていた被災者が、トラック右後方で倒れていたのを現地担当者が発見した。救急搬送されたが、意識がもどらず死亡した。	40301	90	30～ 49
		6	事業所玄関及び門扉の鍵当番だった同僚が朝出勤し、門扉を開けて事業所玄関に向かったところ、事業場敷地内の門扉と玄関との間の客用			

2019	11	8	駐車で倒れていた被災者を発見した。被災者はすぐに救急車で病院に搬送されたが、同日に多発肋骨骨折による右外傷性血気胸で死亡した。倒れていた被災者を発見した時、周囲に被災者以外の人はおらず、被災者は多発肋骨骨折に至った経緯を話すことは無かった。	90109	99	1～9
2019	9	16～18	被災者は倉庫内において一人で荷の片づけ作業を行っていたが終業時間になっても本社に帰社しなかった。そのため、会社の者が倉庫に確認に行ったところ、頭から血を流した被災者を発見し、その後救急搬送されたが死亡したもの。	10805	1	100～299
2019	7	12～14	ホテルにおける災害。被災者は一人で1階床下の地下ピットへ入り、そこにある配管群に対する水漏れ箇所を探し、当該箇所をシールする作業を行っていた。作業開始から2時間ほど経過したところで同僚が呼び掛けたが、返事がなかったため同僚も地下ピットへ入ったところ、地下ピットの床を浸していた配管漏水による水溜まりの中に顔をつけて倒れている被災者が発見されたもの。	140101	10	30～49
2019	6	14～16	織機を用いた繊維の加工・製造を行う事業場において、事業場敷地内の第一工場から出火し、第二工場、第三工場へと延焼し全焼した。その結果、第二工場と第三工場間の中庭にて1名が死亡した他、1名の労働者が負傷した。	10203	16	10～29
2019	6	14～16	織機を用いた繊維の加工・製造を行う事業場において、事業場敷地内の第一工場から出火し、第二工場、第三工場へと延焼し全焼した。その結果、第二工場内にて1名、第三工場にて2名の遺体が発見された他、3名の労働者が負傷した。	10203	16	50～99
2019	6	14～16	織機を用いた繊維の加工・製造を行う事業場において、事業場敷地内の第一工場から出火し、第二工場、第三工場へと延焼し全焼した。その結果、第二工場内にて1名、第三工場にて2名の遺体が発見された他、3名の労働者が負傷した。	10203	16	50～99
		14	織機を用いた繊維の加工・製造を行う事業場において、事業場敷地内の第一工場から出火し、第二工場、第三工場へと延焼し全焼した。そ			50～

2019	6	～ 16	の結果、第二工場内にて1名、第三工場にて2名の遺体が発見された 他、3名の労働者が負傷した。	10203	16	99
2020	6	～ 14	12 刑務所内における施設の清掃業務として、熊手竹ほうきを使用し、正 門の近くにある植込みのソテツの木に張られたクモの巣の除去を行っ ていたところ、急に倒れこみ、頭部を強打したもの。	170209	2	100 ～ 299
2020	6	～ 14	12 修繕船の船内でアイスコンバー（氷を砕く機械）の点検口の取り付け 作業を行っていたところ、室内から出火し、消防隊員が救出したもの の、死亡していたもの。	11501	16	10～ 29
2020	6	～ 14	12 修繕船の船内でアイスコンバー（氷を砕く機械）の点検口の取り付け 作業を行っていたところ、室内から出火し、消防隊員が救出したもの の、死亡していたもの。	11501	16	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html